

侵入警戒中

セアカゴケグモに注意!

愛媛県 生物多様性センター

セアカゴケグモとは?

セアカゴケグモ (*Latrodectus hasselti*)
 【日本：特定外来生物】
 原産地：オーストラリア、東アジア、南太平洋諸国
 雌に α -ラトロトキシンという神経毒があり、咬まれると激しい痛みや腹部痙攣を生じさせます。日本では咬傷被害による死亡例はありません。1995年に大阪府と三重県で国内初確認され、現在は日本各地で生息が確認されています。
 愛媛県では、2014年に初確認され、現在は各地で散発的に確認されている状況です。

■生息場所

自然環境では岩下の隙間や窪みに営巣しますが、人工的環境にも適応可能で、エアコン室外機裏や、道路側溝、自動販売機裏、フェンス基部、長期間放置した車両等に営巣していた事例があります。

■営巣

地上部に営巣するクモと異なり、不規則な管状の巣を地表の隙間に作ります。巣には落ち葉等が付着し、クモの巣と判断できないことがあります。

■産卵と幼体

野外では一生の間で最大7~8卵嚢を産みます。1卵嚢あたりの卵数は100~200個で、産卵後約20日で幼体が出囊し、雌は約70日、雄は約40日で成熟します。

セアカゴケグモの外観的特徴



不規則な白斑紋が出ることがあります。

背には黒地に赤い斑紋

歩脚は黒色

体長♀:7-10mm
♂:2-3mm



セアカゴケグモの卵嚢

1つの卵嚢には100~200個の卵が入っています。



オスが見つかることは稀です。

セアカゴケグモ (雄)



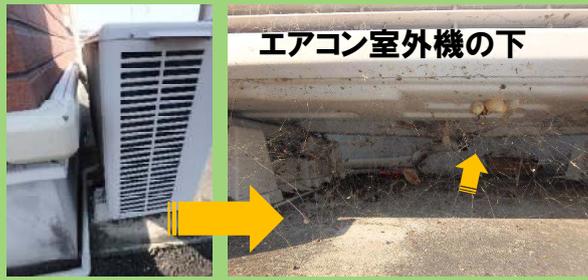
出囊した幼体

1mm



腹部腹面に砂時計状の赤い斑紋
 これはハイイロゴケグモなど、他のゴケグモ属のクモにも共通する特徴です。

営巣場所と営巣状況



エアコン室外機の下



側溝のグレーチングの下

県内でのその他確認事例

メッシュフェンス基部、石垣の隙間、放置自転車ほか

人家周辺で見つかりやすいセアカゴケグモに似た無毒のクモ



写真提供: 鶴崎展臣教授(鳥取大学)

オオヒメグモ♀
 人家周辺でもっともよく見られる在来種 of ヒメグモ(無害)



写真提供: 鶴崎展臣教授(鳥取大学)

マダラヒメグモ♀
 人家周辺でよく見られる外来種 of ヒメグモ(無害)

2種共に、腹部腹面に砂時計状の赤い斑紋はありません。

★外来生物被害予防3原則★

入れない **捨てない** **拡げない**

愛媛県立衛生環境研究所
 生物多様性センター
 〒790-0003 愛媛県松山市三番町8-234
 seibutsu-cnt@pref.ehime.lg.jp